

教育振興運動メールマガジン

「みんなで教振！」通信 ★家庭学習と読書推進のポイント教えます★

☆☆☆ このメルマガの内容とは？ ☆☆☆

このメールマガジンは、教育振興運動全県共通課題（「家庭学習の充実」と「読書活動の推進」）の推進にあたり、実践事例の紹介や意見交流を行うために、各実践区事務局、県内小中学校、市町村教育委員会、県内指導主事・社会教育主事、そのほか関係者の方々に送信しているものです。

< 目 次 >

- 1 【 事例紹介 】 「種市小学校（洋野町）」 ≪家庭や地域との協働≫
「田野畑中学校（田野畑村）」 ≪まなびフェストと評価≫
 - 2 【 家庭学習 】 学校と仲良く
 - 3 【 読書推進 】 じゃあ、読もう！
 - 4 【 教振は今 】 教ちゃん、振ちゃん見聞録
 - 5 【 みんなの声 】 ぺっこ言い隊
 - 6 【 編集後記 】 あつしのひとりごと
-

- 1 【 事例紹介 】 「種市小学校（洋野町）」 ≪家庭や地域との協働≫
「田野畑中学校（田野畑村）」 ≪まなびフェストと評価≫

今回は、岩手県生涯学習審議会・社会教育委員会議において、県教委学校教育室から紹介された「目標達成型の学校経営」についての2事例を紹介します。

種市小学校の「まなびフェスト」は、学校の取組の横に家庭の取組を示し、それぞれがすべきことを明確にしています。また、「まなびフェストだより」を発行し、取組の様子や評価を確認しあいながら進めています。

P T A、P T AのO B、地域の方によって構成される「子どもたちを支援する会」が、授業から放課後や休日の活動まで支援しています。

事例⇒ http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/jirei_taneichi.pdf

田野畑中学校は、「教師の支援」を中心に、「家庭の支援」・「P T A活動の支援」・「地域の支援」等により、めざす生徒像（到達目標）の実現をはかっています。年間を5つの節に分け、テーマを持って取り組み、職員・生徒・保護者・P T A役員・学校評議員によって、年に2回の達成評価をおこなっています。評価は、次年度の学校経営改善に反映されます。

事例⇒ http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/jirei_tanohatahi.pdf

2【家庭学習】 学校と仲良く

「子どもたちの課題を、みんなですべてたかって、やっつけるのよ！」岩手大学客員教授の高橋寛先生が、教育振興運動のことをこう表現されました。みんなとは、もちろん「子ども自身・学校・家庭・地域・行政」の5者のことです。

同じ目標を目指すとき大切なのは「協力する」こと。5者は、子どもたちの課題を解決する同志なのです。「モンスター・ペアレント」や「クレーマー」は自分の不満を吐き出しているだけで、実は子どものためになっていません。

「どうやって家庭学習をさせたらいいのか」・・・お父さん・お母さんは悩むところでしょう。そういう時は、学校の先生を頼ればいいのです。先生は教育の専門家であり、必ず家庭学習のコツをアドバイスしてくれるはずです。また、学校が配布している「家庭学習の手引き」について、丁寧に教えてくれます。

お父さん・お母さんも、地域の方も、もっと積極的に学校へ足を運びましょう。今どんなことを学んでいるのかを知る良い機会です。「まなびフェスト」や「家庭学習ノートの作り方・お手本」を廊下に掲示している学校も多くあります。

先生に家庭学習のアドバイスを聞くときは、「どうやればいいのですか？」という聞き方ではなく、「分数が苦手なようですが、どういう勉強の仕方したらよいですか？」と具体的な例をあげて聞くと、先生も答えやすくなります。

「このプリントをやらせてみてください」と指示をもらえるかもしれません。学習のやり方がわからない子どもでも、プリントや具体的な課題を提示されれば、自分で進めていくことができます。「先生から、特別に、ないしょでもらってきた秘密のプリントよ」と渡してあげれば、きっと喜んでやると思います。

自分の親が先生と仲良くしていると、子どもはうれしいものです。また、親が先生と何を話しているのか、とても気になるものです。「あなたのことよ」とだけ言って、細かいことは話さない。それで、もう効果充分です。

学習の仕方については先生と協力し、学習の習慣を身につけさせる時間の確保は家庭と地域が協力していきましょう。また、せっかく小学校で取り組んでも、中学校のお兄ちゃん・お姉ちゃんが取り組まなければ、弟・妹もその気になりません。地域の取組として、小中学校が協力することも大切なことでしょう。小中学校が一貫した取組をおこなうことで、学習習慣の継続も図られます。

3【読書推進】 じゃあ、読もう！

- (1) こころのチキンスープ
(共著；ジャック・キャンフォード、マーク・V・ハンセン)
- (2) 心眼力 (著；野口嘉則)

- (3) 今日も一日お元気で 365 日 (著; 田中信生)
- (4) カリスマ体育教師の常勝教育 (著; 原田隆史)
- (5) 工藤公康 プロフェッショナル (著; 黒井克行)
- (6) 栗の樹ファーム物語 (著; 栗山英樹)
- (7) ただマイヨ・ジョーヌのためでなく (著; ランス・アームストロング)
- (8) チーズはどこへ消えた? (著; スペンサー・ジョンソン)
- (9) 成功の教科書 (著; 原田隆史)

平成 22 年 2 月 1 日の岩手日報に掲載された菊池雄星くんお薦めの 9 冊です。読書家として知られる雄星くんは、中学校時代から月に 10 冊くらいのペースで読書続け、「読書は、自分の中の基本をつくり、いつか必ず役に立つという無形の力をくれる」と言います。

授業や野球の練習の毎日であっても、「寝る前や授業の合間などに時間を見つけて読み、高校 3 年間で 350 冊近く読んでいる。気がつくと本屋にいるという感じだった」とのこと・・・。

岩手県が毎年おこなっている「読書状況調査〔平成 21 年度〕」では、小学生の不読者 (1 ヶ月に 1 冊も本を読まなかった児童生徒) は 1 %でしたが、中学生の不読者は 18 % (5 人にひとり)、高校生は 39 % (10 人のうち 4 人) でした。

雄星くんが読書時間に当てていた「寝る前」や「授業の合間」などのちょっとした時間を「すきま時間」と言います。時間はあるものではなくて、自分でつくるもの。「読むひまがない」ではなく、本を読む時間をつくって欲しいです。

朝読 (あさどく)、家読 (うちどく) と読書の用語もいろいろありますが、「つんどく (積読)」という言葉もあります。本を読まずに文字通り積んでおくことです。いつ読む気になっても、すぐに手にとることができる環境にある。そのためには、本は「買って置いておく」ことに意義があるのです。

読書の習慣があるかどうかは、その子どもの一生を左右します。読書は、学力の基盤になり、豊かな人間性を育み、一番身近な「生涯学習」となります。読書の習慣は、親が子に与えてあげる最高の贈り物です。じゃあ、読もう!

4 【教振は今】教ちゃん、振ちゃん見聞録

(教ちゃん) あと 1 ヶ月で春休みね。早いわ～。

(振ちゃん) 教育振興運動も集約大会が終わって、今年度の反省や次年度の構想を考える役員会議や事務局長会議がおこなわれる時期だね。

(教ちゃん) そうね。次年度こそ、各学校・実践組織ともに「家庭学習の充実」と「読書活動の推進」を「まなびフェスト」と関連させて取り組んで欲しいわ。

(振ちゃん) うん。今回紹介した種市小学校や田野畑中学校の事例は、学校経

営側の視点で書かれているけど、その内容は教育振興運動と同じだよ。 「まなびフェスト」を達成させる道具としての教育振興運動。教育振興運動を継続的な取組とするための「まなびフェスト」。その共通点であり、具体的な取組内容が、「家庭学習の充実」と「読書活動の推進」という全県共通課題なんだよ。

(教ちゃん) 振ちゃんが、熱く語ってる・・・。

(振ちゃん) 17・18日に開催された「岩手県教育研究発表会」では、「家庭学習」についての研究発表があり、分科会もあったんだよ。15日の岩手県社会教育主事等会議では、県内の社会教育主事と教育振興運動を担当する指導主事が、次年度の「まなびフェスト」と「全県共通課題」の推進について、激論を交わしたんだ。社会教育主事と指導主事が手を組んで取り組むなんて、アントニオ猪木とジャイアント馬場の黄金タッグが復活したみないじゃないかっ！

(教ちゃん) 振ちゃんが、燃えている。・・・ステキ！

(振ちゃん) ガルルルルル・・・。

(教ちゃん) あっ！あの伝説の「いわて希望大作戦」を見逃しちゃった皆さん。テレビでの放送は終わっても、インターネットでいつでも見ることができるからね。白いドレスを着た私を見てちょうだいね～。

(振ちゃん) ガルルルルル・・・。

『いわて希望大作戦』2月放送

「学校、家庭、地域の力で学力向上！～家庭学習の充実～」はココ。

めんこいテレビ ⇒ <http://www.menkoi-tv.co.jp/program/kibou/index.html>

テレビ岩手 ⇒ <http://www.tvi.jp/kibou/100207.html>

5 【みんなの声】 ペっこ言い隊

いつも楽しく拝見しております。今、我が家で現実 to 起きている問題について相談します。

大学受験や高校受験など、目指す進路に向かって子どもたちが頑張っている時期ですが、「合格したらゲームを買って欲しい」と言われて困っています。「〇〇したら〇〇して欲しい」という交換条件みたいなご褒美？は、教育上いかなもののでしょうか？

それで頑張ってくれるなら買ってやろうかなと思うのも親心、いや、ここは厳しく接しようと思うのも親心で、非常に揺れています。何かいいアドバイスをお願いします。(H町 Cさん)

★お答えは、「あつしのひとりごと」で・・・。

メルマガの感想や日頃思っていることをどんどんお寄せください。

⇒ 21kyoushin@gmail.com

6 【編集後記】あつしのひとりごと

お気持ちお察しします。わが息子も高校受験生・・・立場は同じですので、その気持ちはとてもよくわかります。息子が「携帯電話が欲しい」って、いつ言ってくるのか・・・実は私も内心ドキドキしています。

さて、進学の見込条件について・・・です。結論は、良いこととは思いません。〇〇のために（〇〇を買ってもらうために）高校に、大学に行くのではないのからです。進学は、自分が希望して行くものです。だから、努力するのです。その筋を話せば、子どもはわかってくれるはずですよ。

進学は、親のためにするのでも、親がお願いして、してもらうものでもありません。また、ご褒美で釣るものでもありません。その学校に進学したいと決めたのは自分ですし、可否の責任も自分が負うべきです。そうでなければ、「（行きたくないのに）行かされた」と、子どもに逃げ道をつくらせてしまいます。

受験は、大変だと思います。回りで見ている親の気苦労も、大きいですよ。子どもにとってみれば、今まで誰かが手を貸してくれたのに、自分の力だけで乗り越えなくてはならない壁に直面して心が揺れ動いていることでしょう。

しかし、それを乗り越えてこそ「成長」するのです。ここで手を貸すことは、その「成長」するチャンスを奪ってしまうことになるのではないのでしょうか？いつもそばにいてあげる、どんな結果でも受け止めてあげるという「安心感」が、物を与えるよりも子どもにとっての何よりの励みとなると信じています。

私も、15年間子育てをしても、15歳の子どもを育てるのは初めてです。19年間中学校の教師として中学生に接してきましたが、親として受験を迎えるのは初めてです。子育ては、毎年・毎日が初めてで、悩んで当たり前。その初めての毎日に戸惑い、それを楽しみながら、私も「親」として育てられています。

この世の中は、「投げかけたことが、返ってくる」のです。自分がしたことが、必ず自分に返ってきます。そう考えると、交換条件やご褒美を与えて合格した我が「子」に、そう子どもに接した「親」に返ってくるものは何でしょう？

⇒ 第16号は、3月9日（火）配信です。

★**教育振興運動の資料・「教振メルマガ」のバックナンバー**は、こちらまで。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/index.html>

★このメールへの感想、ご意見・ご要望は、こちらまで。

⇒ 21kyoushin@gmail.com

★生涯学習の役立ち情報なら何でも「まなびネットいわて」まで。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/>

★子育てに迷ったら、ひとりで悩まず「子育ていわてケータイサイト」に。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kt-shien/>

~~~~~配信元~~~~~

- \* 岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課
- \* 発行人：教育振興運動担当 佐藤敦士（さとう あつし）

転送はご自由です。どんどん転送してください。口コミは、あなたから始まります。「みんなでやろう！」という雰囲気あなたから作りだしてください。

⇒ 学校新聞の裏面に掲載しての各家庭への配布、回覧板を使っての自治会・子ども会への回覧も大歓迎です！

~~~~~